

第 3 7 回 IFRC 会合の結果について

井上信幸

日 時平成 1 1 年 6 月 9 日, 1 0 日

場 所ウイーン IAEA 本部

出席者 Brazil: I.C. Nascimento, Canada: D.P. Jackson, China: X-W. Deng,
EC: E. Cannobio (IFRC 議長), S. Clement Lorenzo, France: J. Pamela, Germany: M.
Kaufmann, India: (absent), Italy: F. De Marco, Japan: N. Inoue, Russia: V.P. Smirnov,
UK: K.C. Robinson,
USA: (absent)
IAEA: S. Machi, D. Sood, T. Dolan, U. Schneider, T. Kelleher, P. Oblozinsky

1. Opening (Dr. Machi)

- 国連傘下の組織の財政は IAEA を含めて逼迫。9 月に決まる予算はゼロノミナルグロース (インフレにより実質削減)。いくつかの主要国から圧力をかけられている。日, 米, 加はゼロノミナルグロースを主張, フランス等はゼロリアルグロースを主張している。効率よいプログラム編成が必要である。
- 核融合は IAEA の重要領域。中国, 印度, 韓国等は核融合の重要性を認めているが, 多くの国 (特に開発途上国) が核融合の近未来のベネフィットと IAEA での核融合研究の必要性に疑問を持つ。
- 事務局長が Briggs 氏から Mohamed ElBaradei 氏に変わった。

2. Nuclear Fusion

- 予約購読数が年に 5%低下。寄贈を止めるとともに, web publishing で補う計画。

3. IAEA Plasma Physics & Fusion Activities

- 横浜の会議はよく組織化されていたとの評判。
- Fusion Energy Conference のプロシーディングの原稿がメールで送られてきたが, 問題が多い。外注で解決をはかり, 本年 9 月に CD-ROM 出版を目指す。
- 政治家等外部への説明のため, IAEA で核融合技術のスピンオフに関するデータベースを確立して, インターネットに載せる計画。Culham Lab.でも同様のことを行っており, IAEA でどのようなものを出すべきか, IFRC で検討する。

4. ITER (Dr. Canobbio)

- 現状報告と建設に向かったの手續きとスケジュールについて説明.
- "thermonuclear"と"reactor"を避けるために, 名称 ITER の変更があり得る. "amplifier"の案もあるが, public には説明しにくい.
- アジアの国が参加を望んでいるが, 参入や離脱手續きを含む新しいフレームワークが必要であろう.

5. IEA Activities (Mr. Nakamura)

- 現行の活動に関して報告. 気候変動とエネルギー問題に関する閣僚会議の引用文を配布. 委員から気候変動議論に結びつけるのは有効でないとの意見が出た.
- 委員から IAEA との協力を促進することが望まれるとの意見が出た.

6. Status of fusion research in various countries

各国の状況について各委員が説明. 一部記載.

- カナダ政府は核融合のサポートを中止した.
- ロシアでは原子力局が核融合をサポート.
- EU のパーリアメントが翌週の選挙で決まる. ITER に関してはパーリアメントのポジティブサポートが必要.
- 中国の核融合予算はこれからの 5 年間に従来の 2 ~ 3 倍増加の見込み.

7. The 18th IAEA Fusion Energy Conference, Italy, 2000

- Sorrent 市で 2000 年 10 月 4 日 (水) から 10 日 (火) まで開催.
- 横浜と同じく, Artsimovich-Kadomtsev Memorial Session を開く. 候補者として, ElBaradei 事務局長, Dr. C. Rubbia, Dr. M. Yoshikawa, Dr. E. Velikhov をあげ, それぞれの可能性について担当委員が調べて IAEA に報告. Chairman の候補者は Dr. Fasella.
- 横浜と同様, サマリーセッションを設ける.
- プログラム委員会の構成を次の通りとする. ヨーロッパ (ウクライナ等の東ヨーロッパを含む) 6, 日本 5, 米国 4, ロシア 3, ラテンアメリカ 1, 中国 1, 印度 1, 韓国 1, ITER 1, IAEA 2. (順番では議長は日本) トピックスのリストに関しては IFRC で検討. 前回は heating のセッションは殆どが heating でなく confinement であった.

8. The 19th IAEA Fusion Energy Conference, France, 2002

- Lyon 市で 2002 年 10 月 19 日から 19 日まで開催. フランス政府が受諾.
- レーザーメガジュール施設等を見学予定.

9. The 20th IAEA Fusion Energy Conference, 2004

- ポルトガルと米国が開催に関心。他に可能性があれば、次回 IFRC までに提案。

1 0. Year 2000 IAEA Program Plan

- IFRC のほか、RCM-Research Coordinated Meeting, CS-Consultant Service, TCM-Technical Committee Meeting, AGM-Advisory Group Meeting の開催場所と時期について検討した。

1 1. IAEA Programme Plan for 2001-2002

- TCM "Transport barriers, experiment and theory"を 2001 年に日本で開催の要請があった。

1 2. Support for IAEA fusion research activities

- IAEA で作成中の Major Programme on Nuclear Applications に関する Programme Performance Assessment System(PPAS)レビューパネルのレポート原案では核融合のプライオリティーは低く、IAEA の fusion activities は技術会合と核データ・原子分子データ会合に制限すべきであると述べられている。
- 原案には事実誤認があるので、Canobbio 議長が反論を述べた手紙を事務局長に送る。

以上